

国道159号(浅野川大橋～東山～山の上)交通安全対策協議会

今後の方向性について

平成19年6月4日



1

当初目的の達成状況

①朝のラッシュ時における歩行者の安全確保

②みんなが安全・安心な道路空間の創出

- 対象区間を通る自転車の約8割がルール順守
- 歩行者の約7割が歩道が安全になったと評価

- 安全性の向上を実感している人が多数存在
- 「交通安全の意識が高まった」との意見あり

当初の目的を達成し、交通安全に貢献
(自転車走行指導帯は一定の効果を発揮)

2

課題の整理

- ◆当初目的は達成されているが、一部の自転車利用者からは「危険・怖い」との意見あり
- ◆朝の指導による波及効果がみられるものの、日中や夕方における効果がやや薄い
- ◆バスの定時性は確保されているが、バス事業者は「再検討すべき」との意見が多い
- ◆信号待ちでクルマが並ぶ時、バスが停車した時に自転車に乗ったまま歩道を走行
- ◆高校生以外の一般の自転車利用者や、ドライバーへの周知徹底を求める声あり
- ◆アンケートでは「試行継続」の意見多数

3

今後の方向性（案）

■結論

協議会主体の「社会実験」を継続



- ◆交通安全対策の浸透度アップ
- ◆反対者・不満者の満足度アップ

4

今後の方向性（案）

■ 今後すべきこと

- ◆ 継続期間・・・9月末まで（半年間に延長）
- ◆ 月1回ペースで朝の街頭指導を実施（8月を除く）
→ 日中や夕方の指導については要検討
- ◆ CCTV映像による自転車走行実態調査の実施
- ◆ 社会実験結果の公表、継続的な広報活動
→ 違反者の属性把握・・・ターゲットを絞った広報
- ◆ 反対が多いバス事業者へのヒアリング及び対策検討

第4回協議会（10月）に判断